敬老カード 高齢者の外出支援になる改善を
市長候補に質問状提出

２００７年札幌市長候補の敬老パス政策について

札幌敬老パスを守る連絡会
事務局長　佐藤　宏和

（１）候補２人共に、敬老パス制度の改善に踏み込んだことは大きく評価します。

自民党・公明党推薦の清治候補が、選挙政策の最初に、「敬老パスの原則無料化」と掲げた事が波紋を広げました。ついで、上田候補も上限額引き上げを公約するという展開になりました。

これは、敬老パス制度の改善を求める、切実な実態と要望が渦まいていたこと、昨年11月に実施した市民世論調査でも、除雪に次いで高齢者福祉充実要望が第２位であり、無視できない施策であったことだと思います。

（２）私達の要求は、「元に戻せ」が基本ですが、当面、外出抑制につながる上限額の撤廃、あるいは大幅引き上げが必要だと考えています。二人の候補の政策を見てみます。

◎清治候補は、「敬老パスは、社会参加に必要」と認めたことは、重要です。そのために「原則無料にします」と公約しました。負担軽減は歓迎すべきですが、利用者の声は「年５枚では、全く足りない事に気づき愕然」「相応の負担は必要だが、上限５枚は少なすぎる」（05.7道新記事）というのが多数なのです。負担軽減は歓迎ですが、それだけでは外出抑制は解決しないのです。

しかも清治氏は、全員が無料ではなく、年収３５０～400万円以下の人に限定するとしています。所得で格差をつける事には異論も多く、感心できません。無料化のための財源も、２割負担する高齢者の収入と市職員の給与削減で当てるというのも問題でしょう。

◎上田候補は、「負担軽減するには借金しかない」と消極的ですが、「実績と利用者の要望をふまえて、上限を５万円から７万円に引き上げる」と公約しました。私達の粘り強い運動が反映したものであり、歓迎します。しかし実施が０９年度というのは遅すぎます。少なくとも、０８年度から実施することが大切でしょう。それは高齢者の社会参加や介護予防が焦眉の課題であり、経済波及効果も期待できるからです。

札幌敬老パスを守る連絡会は、３月９日、清治真人市長候補に、下記の公開質問状を出しました。負担金を「原則無料」はどこまでが無料なのか、また上限については変えるのか変えないのかを聞くためです。16日までに回答を要請しています。上田候補への質問は、今後の推移を見て検討中です。

質問状を清治候補事務所の政策担当者に渡す、竹中代表・佐藤事務局長

敬老パス（敬老優待乗車証）政策に関する公開質問状

清治真人氏は「無料パス」にすると公約を出されたので、具体的に質問させていただきます。

［質問１］「敬老カードを原則無料にする、とはどんな制度にしようとしているのでしょうか。特に、上限はどうなるのでしょうか。また、現行の上限についてはどのように考えていますか。

［質問２］「所得制限方式」を提案しておられ、「仮に４００万円以上の所得の方に２割負担」と説明されていますが、正式に、所得制限基準と負担割合を教えて下さい。

［質問３］「『申告制』にして必要な人に限定する。」と説明されています。現行も「申告制」ですが、それとは違う「申告制」だと思われますが、どのような制度ですか。

	上田候補	清治候補
自己負担	現行どおり。	年収350～400万円以下の人は無料、それ以上は2割負担。
上限額設定	2009年度から5万円を7万円に引き上げ（11.4億円の予算）。	表明していない（事務所幹部－検討中と答えた）。

Fax通信　０７年３月１２日
札幌敬老パスを守る連絡会
白石区菊水3条3丁目 井上ビル 札幌社保協気付
TEL ８２３－０８６７Fax ８２１－３７０１
www.sapporo-syahokyo.jp/syaho_pass.htm